

海沿いと山間の地域でボランティア活動

## 川上と岸良にこいのぼり舞う

男の子の誕生と成長を祝う端午の節句に合わせて、岸良会（岸良地区の青壮年によるボランティア団体）が4月6日に海が見渡せる道路沿いの展望所にこいのぼりをあげました。

同会の初めての取り組みで地域住民から提供されたこいのぼりは全部で27匹。垂直に立てた竹に飾るといって、よく見かけるスタイルですが、これだけの数が並ぶと遠くからでも確認できるほど、よく目立ちます。

同会の安田正一事務局長は「当初は、展望所から海岸へロープを張り、こいのぼりを泳がそうと考えていましたが、数が集まりきらず、今のかたちになりました。ですが、このほうが目立つという声を聞いたので、結果的にはよかったと思います」と話しました。

こいのぼりは5月11



作業を進める片野老人部のメンバー



川風になびく片野のこいのぼり



海をバックに風にそよぐ岸良のこいのぼり

ばいまであげられ、随時こいのぼりの提供も受け付けています。

また、後田の片野地区老人部も4月15日、集落を流れる高山川にかかる橋に沿ってこいのぼりをあげました。

この取り組みは、過疎化が進む地域においてなにかできることはないかと、同老人部が約20年近く続けている活動です。長年の活動で少しずつ知

名度が上がり、知り合いなどからの提供で年々こいのぼりの数が増え続けているそう、今年53匹があがりました。

川上中学校の正門前の木から対岸へロープを張り、橋の両側に沿ってこいのぼりが泳ぎます。今年さらさら趣向をこらし、同じ始点から2本のロープを伸ばしながら、徐々に対岸に向かってハの字になるようにして、

地域の幸運を願う、末広がりにしました。

同老人部の下片野虎志部長は「毎年こいのぼりが増えてにぎやかになりました。今年はバランスよく取り付けできたと思います」と、たなびくこいのぼりを眺めながらうれしそうに話しました。こいのぼりは5月10日ごろまで掲げられ、随時追加のこいのぼりの提供も受け付けています。